日本共産党の地域新聞　発行所：日本共産党夕張市委員会　夕張市千代田２番地の２　TEL &FAX　52-3097　2013年８月25日（日）　第1459号(1)

民報 ゆうばり

「こども・被災者支援法」基本方針早急に！

たくさんの支援で福島から5家族16名が保養に！！

東京電力福島第1原発事故を受けた「子ども・被災者支援法」1年たっても国は支援の基本方針を打ち出さず、放置状態 ～子ども18人が甲状腺がんと確定～（福島県健康調査で） ＝5家族16名が夕張市内で1週間の保養～夕張夢再生館＝

8月6日から11日、夕張夢再生館では、「夏休みふれあいツアーin夕張」を開催しました。

この取り組みは、2011年の福島第一原発の事故によって被災し、放射能被害に不安を感じながら暮らす、被災者の方たちを支援するために、昨年に続き2年目の取り組みです。

今年は北海道からの交通費の助成金が廃止されたため、様々な市内のイベントでハンカチ募金を行ったり、インターネットで全国から支援を募るクラウドファンディング等で100万円を超える支援金を集め、今回の保養ツアーが実現しました。

9か月から6年生まで、11人の子どもたちと5人のお母さん、福島から夕張へ

◆◆◆

5日夕方に仙台港を出発し、6日朝に苫小牧港に到着。

★南部で昼食交流会

7日には、南部コミュニティセンターにおいて、ふれあいサロンを支援している在宅福祉推進委員会のみなさんによる「昼食交流会」が開催されました。

子どもたちは、会員の皆さんとのパークゴルフや手品、折り紙などで楽しい時間を過ごし、お母さんたちは、市民との交流会で福島での暮らしの様子を話していました。

★外で遊ばせるのは1時間以内に…

「国の収束宣言が出て以来、地産地消ということで学校給食にも福島産の米や野菜が使われるようになった。給食を食べさせたくない家庭では、同じメニューの弁当を持参してもよいことになっているが、それも学年に1～2人程度。」

「少しでも放射能の被害を減らしたくて空気清浄機を2台つけている。公園の看板には『遊ばせる時間は1時間程度にしましょう』と書いてあり、外で飼っている犬は放射能まみれだからと、子どもたちにはあまり触らせていない。」

虫や草、土にもさわれて、うれしい！

「夕張で遊ぶ子どもたちを見ると、これが普通の暮らしだとつくづく思う。セシウムが体から抜けてなくて、骨がもろくなっていて心配。」

★福島ではテレビで毎日放射線量を報道

「福島のテレビでは、毎日各地域の線量が報道され、個人や町内会などでも線量計をもっていて、気になる人は借りてきて測っている。福島に帰ったらいろんな考えがあるので、自分の思いをなかなか口にできない。」

「老いた両親や、建てたばかりの家、仕事の事などを考えると移住に踏み切れない。旅行にはいかず、夏に夕張に来るためにお金をためている。」など等。

また、参加した市民や高校生からは、「本当に大変なご苦労をされていることがわかった。将来の事を考えたら、どんなに不安かと思う」「夕張も財政破たんで大変だったが、福島はもっと大変。何ができるか、支援の方法を考えていきたい」等の感想です。

夕張夢再生館の事務局を担当するくまがい市議からは、「この夢再生館は、3人の市議を含めたメンバーで構成し、オール夕張で支援したいと活動している。何かあった時には、ぜひ、自分の実家のように安心して来てほしい。出来る限り力になりたい。」と話していました。

◆◆◆◆

現在、甲状腺がんと確定した子ども18人。また、25人が細胞検査でがんの「疑い」があると診断されています。

6月、「復興共同センター子どもチーム」は、復興庁で根本匠復興大臣に、除染のスピードアップ、子どもの健康診断、医療費の無料化、空間線量計の配布、「子ども・被災者支援法」の対象を県全域に広げ、具体化を急ぐことなどを要望しました。日本共産党の高橋ちづ子衆院議員、神山悦子福島県議が同席しています。

国の「原発ゼロの決断と一日も早い支援の具体化」を求めます。

今年も楽しく産直交流会！
＝新婦人夕張支部＝

車中で学習しながら、長沼町に向かう皆さん

８月10日(土)、新婦人夕張支部の産直会員の一行はマイクロバスで長沼町に向かいました。

長沼に着くと、農民組合の薮田さんが同乗し、車中から田畑の見学をしながら、いろいろな説明を受けました。

春先の低温が心配されたものの、現在では良い作況ということで一安心。コメの品種や特徴の説明の中に、本州のコメに勝るとも劣らない質の良いコメ作りをしている自負と誇りがあふれていました。

ＴＰＰ参加で安心と安全を壊されてはならないと思いました。

交流会場では、焼き肉、ビンゴ、新鮮野菜の販売など、農民組合の方々の心のこもった準備で、学習と交流の楽しいひと時を過ごすことができました。

被爆国の政府にあるまじき態度に怒りを
68年目の原爆の日「強い心で署名行動」

新婦人夕張支部では、８月６日(土)10時から11時半まで、生協前と南清水沢農協前で、「憲法９条を守ろう」「原発ゼロの北海道を」と署名行動。

この春、国際的会議において**核兵器の非人道性を告発し、その禁止を求める共同声明への参加を日本政府が拒否し、核兵器廃絶に背をむけた**ことは、世界の努力に対する裏切りです。

アメリカの「核の傘」から抜け出して、被爆国の責任を果たすべきとマイクで訴えました。

「原発ゼロ」のステッカーを貼った車で旅行中の方の署名や店舗の方々の協力に勇気を得た署名行動でした。（原発ゼロ署名数63筆）

「国会かけある記」
日本共産党参議院議員
大門　実紀史

「生きていてくれるだけで」

「趣味はなに？」と聞かれ、「絵本の収集」と答えると、たいていの人は「がらに合わないね」といいます。清酒の品評とでもいえば納得してもらえたのでしょうか。妻も傍観するなか、この数年で集めた絵本は四〇〇冊をこえました。

いい絵本は大人のこころも揺り動かします。お盆休みで久しぶりに子どもとゆっくり過ごせたお父さんもおられると思いますが、そんな子育て中のお父さんに贈りたい二冊の絵本。

一冊はボー・R・ホルムベルイ作の『パパはジョニーっていうんだ』です。両親の離婚でパパと離ればなれに暮らす小学生のテイム。今日は一日パパと過ごせることになって嬉しくて仕方がありません…。

“レストランにはいると、知り合いのおにいさんが声をかけてきました。

「やあ、テイムじゃないか」

「うん、きょうはパパといっしょだよ。ジョニーっていうんだ」“

“駅まで歩いていくあいだずっと、ぼくはパパの手をにぎっていた。パパの手は大きい。ぼくの手がかくれてしまうくらい。ぼくのだいすきなパパ。ジョニーっていうんだ。“

もう一冊は、マイケル・ローゼン作の『悲しい本』。息子を失った父親のどうしようもない悲しみを、ただ悲しみだけを描いた本です。

“誰にもなにも話したくないときがある…どこもかしこも悲しい。からだじゅうが、悲しい“

この本を読んでから、息子のことをただ生きていてくれるだけでいいと思えるようになりました。